

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと い組		
所在地	伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	令和5年 3月 17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 30 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染症の流行により、外出や出かけようとしても人の居ない所を探していかなければならなくなってしまったが施設の周辺には自然がたくさんあり、毎日外気浴に出かけられ、外にいつでも出れることで、季節を感じながら楽しく過ごすことが出来ている。生活リハビリの継続、個々のADLに合わせたリハビリやレクレーションを提供し、出来る事の継続と出来ることが増えている利用者様も居る。2019から面会制限により、ご家族と会えずにいる期間のレベル低下をなるべく防ぐことを目的としたりハビリに力を入れてきた。会えない時間の経過を写真や入居者様からのメッセージと職員からのメッセージを添えて、少しでもホームでの生活を見て頂けるように写真集を作り年3回に分けてご家族へ送付している。暑中お見舞いと年賀状をKP以外のご家族へも送付している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員は、運営法人関係施設・診療所と連携して、利用者の安全・健康に配慮した支援に注力している。コロナ禍により事業所内での交流制限は続いているが、地域清掃参加、散歩の際の挨拶、オンラインや窓越し面会など工夫して対応している。コロナ以前から、写真を添えた「個別生活記録」冊子や手紙を送り、利用者の暮らしぶりを家族へ報告している。コロナ後を見据えて、地域・家族との関係継続を図るために、感染状況に配慮した工夫した支援方法を検討している。職員は、生活リハビリを重視して、食事・清掃・洗濯・散歩等を日々の活動に取り入れ、利用者が入居前からの暮らしを継続できるように支援している。管理者・職員は、申し送りミーティングや月例ユニット会議にて都度情報共有を図り、連携した対応を心掛けている。感染防止対策として、定期的な換気・消毒の実施とともに、空気清浄機による安全で清潔な環境作りに注力している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で情報収集し合い共有に心がけ実践している	事業所理念を掲示するとともに、朝の申し送りミーティング、全職員対象とした月例ユニット会議にて都度話し合い、職員間の情報共有を図り、理念の実践につなげている。法人は、毎月の営業会議にて、法人内各施設の情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	奉仕作業の参加をしている	コロナ禍により事業所内での交流制限は続いているが、町内会に加入し、職員が地域清掃に参加して、交流を図っている。町内の散歩や買い物、事業所周辺での外気浴の際の挨拶など、地域住民との関わりが深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外気浴時に挨拶をしたり、1年に1回、ご挨拶に回り、理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や包括へ情報提供や相談しアドバイスを頂いている	コロナ禍により書面開催により実施しているが、事業所での利用者の様子や活動を報告し、地域包括支援センター職員、民生委員からの意見の聴き取りを図り、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度、相談しアドバイスをお願いしている	行政とは、関係各課に電話等で常に連絡を取ることができる。地域包括支援センター職員は、運営推進会議の連絡時だけでなく、常に情報共有を図り、協力関係を築くことができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修や見直しを行っている	委員会は、身体拘束担当職員が中心となり、3か月に1回開催している。指針・マニュアルを整え、年2回テーマを決めて、新人職員向けと在職職員向けに研修を実施している。全体会議等にて職員に周知し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加、グループホーム内の研修にて防止に努めるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者 ケアマネジャーを中心とし必要に応じて話し合いを持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者 ケアマネジャーが中心となり報告を怠らず、理解して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を1つにし、家族からの信頼を得るように努め、ケアプランの説明や他報告時に要望等を聞き取りケアに反映している	コロナ禍による制限はあるが、オンラインや窓越し面会など工夫して対応している。コロナ後を見据えて、更に工夫した面会方法を検討している。年3回、写真を添えた「個別生活記録」を冊子にまとめて、利用者の暮らしぶりを家族へ報告している。	コロナ禍でも工夫しながら家族面会を続けているが、コロナ後を見据えた事業所の対応について、「家族アンケート」の実施など家族からの要望や意向を確認するために、更に積極的な取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ミーティング等から職員の意見、提案を聞いている。管理者が業務に入る事で問題の早期解決や情報交換をしている	職員との意見交換や提案聴き取りの機会として、年1回、法人本部担当職員との面談を実施している。管理者は、朝ミーティングや月例ユニット会議において、都度、職員との情報共有を図り、常に報告・相談できる環境作りに尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や訪問時に代表を話す機会を持っている常に報告出来る環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に研修施設があり、全員が研修を受ける事が出来る。他の研修にも参加出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の勉強会があり、参加し交流が出来る		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添いケア、与えるケアより困っていることや出来ない事、不安な事を察知し安全安楽な関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談により聞き取った情報を職員間で共有しより良い関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談により聞き取った情報を職員間で共有し、早期の対応に心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活に個々に合わせた生活リハビリを提供し役割分担をしている。助け合って生活をしていることが理解できるように組み立てている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会、窓越し面会をして頂き、お便りにて近況報告をしたりとご家族へ状況の理解をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や親戚の方々にも葉書を送り、会えない時間を少しでも埋められるように努めている	コロナ禍により面会・外出制限が続いているが、管理者・職員は、利用者とともに年賀状や季節ごとの葉書を出したり、散歩時の挨拶、オンラインや窓越し面会など、馴染みの人との関係継続のために工夫した対応を続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割分担をしたり、仲よし同士が関わり合えるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を送っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア中の会話より知り得た情報を共有し、ケアに反映できるようにしている。記録をするようにしている	利用者・家族の思いや意向は、入居時に「暮らしの情報」シートや「心身の情報」シートに整理をして把握し、職員との情報共有を図っている。日々の利用者の様子や会話の状況を、法人独自の「業務日誌」や「介護経過記録」に記録し、都度確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時にご家族からの情報を頂いている。入居後のご様子から再度聞き取りをすることもある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添いケア、与えるケアより情報交換、共有しケアにつながるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人から聞き取りをし、プランへ反映しより良いケアが出来るようにしている	生活リハビリを重視し、「食卓準備・片付け」「掃除への参加」「個別支援」等の日々の活動が分かる「業務日誌」や「健康チェック表」を活用し、ユニット会議や申し送り時に、情報共有と課題解決を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、健康チェック表へ病状や日々のご様子を記録し情報共有に努め、ミーティングなどでも再確認をしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議や研修から他機関、他施設よりアドバイスをもらうこともあり、柔軟な対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村や他施設や病院から情報を得ることで、その人らしさを提供し安全安楽な生活が出来るように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察、症状によって往診。希望により他科受診やグループ内に整形外科、皮膚科があり連携している。入居前面談時に説明している	法人経営の診療所指導のもと、月2回の往診・週1回の看護師訪問により、利用者の健康を管理している。日々の様子を「健康チェック表」に記録し、医師・看護師との情報共有を図っている。通院は、職員と家族が状況に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診察時に情報提供、1週間に1回の訪問看護の際にも報告、アドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期の情報提供、病院相談員と連携し、速やかに退院できるようにしている。医師との面談に同席させて頂き、早期の対応と関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望を聞き、重度になる前より必要に応じて話し合い、嘱託医と連携し病状の説明や今後の方針等を相談している。法人内の施設や病院への転院なども希望に応じて行っている	重度化した際の事業所の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、希望を聴き取りながら、法人施設への転院を含めた協議をしている。重度化した場合や緊急時には、再度施設医や主治医とともに協議・検討し、関係機関と連携して、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練、マニュアル作成、研修等で実践につなげられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成、防災訓練、必要物品の確保他事業所からの協力体制を整えている台風や大雨時に備えて訓練や実践もしている	防災マニュアルを整備し、年2回テーマを決めて防災訓練を実施している。訓練後の課題や評価を行い、法人内他事業所との連携を確認している。備蓄品は、備蓄品台帳にて1週間を目途に、ローリングストックにて管理している。発電機設置を準備中である。	災害訓練実施記録として、写真を掲載するなど記録方法の検討を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、法人本部だけでなく、事業所と地域住民との連携を含めた計画策定を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの認知症や理解度に合わせたケアの実践、言葉掛けにも気を付けている。周囲への配慮にも注意している	声掛け等の接遇について、入社時のオリエンテーションや年間の研修・勉強会を行い、プライバシーに配慮した対応を確認している。管理者・リーダーは、職員同士の声掛けにも留意し、常に人格を尊重した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活リハビリ、レクリエーション等でその人に合った役割や利用者様同士で決めて頂けるような環境を提供したりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴や体操、レク等の参加の声は掛けるものの、本人の意向を聞き、決定してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や整容品を身近に置き使用して頂く。その人に合わせた整容にも心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、下膳、片付け等に関わってもらうようにしている	「食事準備・片付け」「調理への参加」の状態を「業務日誌」に記録し、生活リハビリとして、ケアプランに反映させている。食事の味や好みについて聴き取りを常に心掛け、献立作りや調理につなげている。レク委員を中心に季節ごとの行事を考え、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、食事量、情報とご本人からの希望も聞き入れ、その人に合わせた食事量、形態で提供している。水分量の摂取もチェックし状態に合わせて提供している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施しているが、本人の希望も取り入れている。義歯の洗浄や口腔セットの消毒も毎週月曜日に行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、汚染の状況に合わせた物品の準備、排泄サインを見逃さない。毎日の訓練から筋力低下を防ぎ安全にスムーズに排泄行為が出来るように努めている	「健康チェック表」で利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導に配慮しながら、トイレ利用を支援している。生活リハビリとして、トイレ利用のための体力保持に努めている。夜間は、安全面から人感センサーやポータブルトイレを利用し、転倒防止に留意しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動等に気を付け、薬や下剤に頼らないように心がけ、オリゴ糖等を飲食に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていない。ほぼ毎日午後より行い、毎日入浴する人もいる。最低でも週3回の入浴が出来るようにしている。ご本人の希望も聞き取り体調に合わせて行っている	週3回、午後入浴を基本として、利用者の体調や気分により、回数を決めずに柔軟に対応している。一般浴・シャワー浴、入浴剤活用等、利用者が気持ちよく入浴できるよう、工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のお部屋へ好きな時に行き休んだり、TV見たり1日1回は外気浴へ、1日の生活リズムを崩さず安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解、変更時の情報交換と共有に努め変更後の様子観察や服用後の状況を必要に応じて嘱託医へ報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの得意な事や好きな事を聞き取りレクリエーションや生活リハビリに取り入れ、ご家族からの希望も聞き、嗜好品や新聞、本等を購入している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出支援、娯楽施設へ出かけていたが現在は距離が保てる所へ出かけたり、ドライブをしたり、現状に合わせた支援をしている	午前・午後を問わず事業所周辺の散歩を実施し、外気浴・日光浴・体力保持を心掛けている。コロナ禍により、買い物や外食などは実施できないが、公園へのドライブや花見を工夫して、利用者個別の対応を心掛け、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布やお金を持つことで安心を得られる場合において、ご家族の理解のもと居室にバッグ等で所持出来るようにしている。買い物支援時にご自分で支払いをして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して頂いたり、手紙のやり取りや年賀状のやり取りもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりやすく表示している。季節の展示物を作成し季節感あるホームづくりに心がけている加湿、除湿にも気を配るようにしている	利用者の生活リハビリに注力し、掃除・散歩・外気浴・体操・レクリエーションを取り入れ、利用者の体力保持に努めている。感染症対策として、空気清浄機を設置し、午前・午後の定期的な換気と1日3回の消毒を行いながら、清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を仲の良い同志や会話を楽しめるようにし、レクリエーションでも相談し合い出来る方で内容を変更したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具、日用品を持参してもらっている。衣類もご本人が作ったものや編んだもの馴染みの物を持参して頂いている。生活しやすいようにセッティングしている	馴染みの家具や品を持ち込み、居心地のよい空間作りを支援している。利用者の安全に配慮して配置を工夫し、大掃除や衣替えは、利用者・家族と相談して対応している。毎日定期的な窓開けと清掃時の消毒により、清潔で安全な居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物を固定したり、設置場所を変更したり環境整備を常にしている。日程の表記や物や場所の表記や分かりやすくするようにしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2270800036		
法人名	有限会社夢無限		
事業所名	グループホーム夢無限おおひと め組		
所在地	伊豆の国市田京929-5		
自己評価作成日	令和5年 3月 17日	評価結果市町村受理日	令和5年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2270800036-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 3 月 30 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

コロナウイルス感染症の流行により、行動の制限からやりたい事、やらなくてはならない事ができなくなってしまった。が施設の周辺には自然がたくさんあり、外出や面会の制限はあるものの、日常生活は皆、生き生きとし、外にいつでも出れることで、季節を感じながら楽しく過ごすことが出来ている。生活リハビリの継続、個々のADLに合わせたりハビリも毎日の積み重ねにより、出来る事の継続が出来ている。2019から面会制限により、ご家族と会えずにいる期間のレベル低下をなるべく防ぐことを目的としたりハビリに力を入れてきた。会えない時間の経過を写真や入居者様からのメッセージと職員からのメッセージを添えて、少しでもホームでの生活を見て頂けるように写真集を作り年3回に分けてご家族へ送付している。暑中お見舞いと年賀状をKP以外のご家族へも送付している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で情報収集し合い共有に心がけ実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	奉仕作業の参加をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外気浴時に挨拶をしたり、1年に1回、ご挨拶に回り、理解をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や包括へ情報提供や相談しアドバイスを頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度、相談しアドバイスをお願いしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に研修や見直しを行っている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加、グループホーム内の研修にて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者 ケアマネジャーを中心とし必要に応じて話し合いを持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者 ケアマネジャーが中心となり報告を怠らず、理解して頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を1つにし、家族からの信頼を得るように努め、ケアプランの説明や他報告時に要望等を聞き取りケアに反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、ミーティング等から職員の意見、提案を聞いている業務に入る事で問題の早期解決や情報交換をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や訪問時に代表を話す機会を持っている常に報告出来る環境である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人に研修施設があり、全員が研修を受ける事が出来る。他の研修にも参加出来るようにしている		

静岡県(グループホーム夢無限おひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ全体の勉強会があり、参加し交流が出来る		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添いケア、与えるケアより困っていることや出来ない事、不安な事を察知し安全安楽な関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談により聞き取った情報を職員間で共有しより良い関係が築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談により聞き取った情報を職員間で共有し、早期の対応に心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒にいき、相談しながら行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会、窓越し面会をして頂き、お便りにて近況報告をしたりとご家族へ状況の理解をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や親戚の方々にも葉書を送り、会えない時間を少しでも埋められるように努めている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士の席を近くにしたり、関わられるようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	暑中見舞いや年賀状を送っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア中の会話より知り得た情報を共有し、ケアに反映できるようにしている。記録をできるようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時にご家族からの情報を頂いている。入居後のご様子から再度聞き取りをすることもある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	寄り添いケア、与えるケアより情報交換、共有しケアにつながるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人から聞き取りをし、プランへ反映しより良いケアが出来るようにしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、健康チェック表へ病状や日々のご様子を記録し情報共有に努め、ミーティングなどでも再確認をしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議や研修から他機関、他施設よりアドバイスをもらうこともあり、柔軟な対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市町村や他施設や病院から情報を得ることで、その人らしさを提供し安全安楽な生活が出来るように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察、症状によって往診。希望により他科受診やグループ内に整形外科、皮膚科があり連携している。入居前面談時に説明している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診察時に情報提供、1週間に1回の訪問看護の際にも報告、アドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期の情報提供、病院相談員と連携し、速やかに退院できるようにしている。医師との面談に同席させて頂き、早期の対応と関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の希望を聞き、重度になる前より必要に応じて話し合い、嘱託医と連携し病状の説明や今後の方針等を相談している。法人内の施設や病院への転院なども希望に応じて行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練、マニュアル作成、研修等で実践につなげられるようにしている		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成、防災訓練、必要物品の確認他事業所からの協力体制を整えている台風や大雨時に備えて訓練や実践もしている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修。排泄行為時、言葉掛けに注意しながらケアすることを心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	得意な事が継続して出来るようにし、希望を聞きながらレクやリハビリに反映させている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外気浴や体操、レク等の参加の声は掛けるものの、本人の意向を聞き、決定してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛用していた物を継続して使用できるようにしたり、鏡やブラシなども居室に置きいつでも使用できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、下膳、片付け等に関わってもらうようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、食事量、情報とご本人からの希望も聞き入れ、その人に合わせた食事量、形態で提供している。水分量の摂取もチェックし状態に合わせ提供している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施しているが、本人の希望も取り入れている。義歯の洗浄や口腔セットの消毒も毎週木曜日に行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握、汚染の状況に合わせた物品の準備、排泄サインを見逃さない。毎日の訓練から筋力低下を防ぎ安全にスムーズに排泄行為が出来るように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動等に気を付け、薬や下剤に頼らないように心がけ、オリゴ糖等を飲食に取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、週3回の入浴が出来るようにし、毎日入浴出来るようにしている為体調や希望に応じて対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きなように居室に行かれる。休んだりTVをみたり1日1回は外気浴へ午後也希望に応じて散歩へ出かけている。生活リズムを崩さず安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解、変更時の情報交換と共有に努め変更後の様子観察や服用後の状況を必要に応じて嘱託医へ報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事をレクやリハビリに取り入れている本人の希望、家族の希望より嗜好品を送ってもらったり、購入している		

静岡県(グループホーム夢無限おおひと)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出支援、娯楽施設へ出かけていたが現在は距離が保てる所へ出かけたり、ドライブをしたり、現状に合わせた支援をしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布やお金を持つことで安心を得られる場合において、ご家族の理解のもと居室にバッグ等で所持出来るようにしている。買い物支援時にご自分で支払いをして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して頂いたり、手紙のやり取りや年賀状のやり取りもしている。ご家族から住所録を預かり送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	分かりやすく表示し、表示する高さにも気を配るようにしている。季節の展示物を作成し季節感あるホームづくりに心がけている。加湿、除湿にも気を配るようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を仲の良い同志や会話を楽しめるようにし、ADLに合わせてレクリエーションを提供し、相談し合い出来る方で内容を変更したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた家具、日用品を持参してもらっている。衣類もご本人が作ったものや編んだもの馴染みの物を持参して頂いている。生活しやすいようにセッティングしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーを設置したり、環境の整備 入居者様に合わせた物の設置が出来るようにしている。出来ることが出来るようにしている		